

—— 3年間の成果概要 ——

分担研究者：諏訪 城三

1. 研究計画ならびに研究方法

過去3年間の研究は次の如き計画にそって行うこととした。

A) 内分泌、代謝疾患の急死（突然死）の研究

1) 対象は次の如く計画した。

a) すでに内分泌、代謝疾患と診断が確定している児が急死（突然死）した場合。これは広義の SIDS に含まれないが、症状などが安定していて、通常では急死すると予測されない児が突然死した場合、広義の SIDS に準ずるものと考えられ、その病態などの追求は SIDS 病態研究の重要な資料となり得ると考えられる。

b) 突然死または未然型突然死の児で、後日の検索にて内分泌、代謝疾患と判明した場合。これは広義の SIDS に分類されると考えられた。

2) 研究方法

a) 上記対象児の症例を詳細に検討する。

b) アンケート調査。全国小児科を対象施設として、上記の対象児について頻度、状況などを調査する。

B) SIDS または未然型 SIDS の検討

1) 対象は狭義 SIDS（死亡、剖検例）または未然型 SIDS（救命例）とした。

2) 研究方法

a) 死亡例 SIDS の内分泌腺について組織学的再検討を行う。特に副腎、膵、甲状腺を重点的に検討する。

b) 未然型 SIDS について血液生化学、ホルモン動態の研究、ならびに筋生検組織について形態学的に代謝病態を研究する。

C) 新生児、未熟児についての追跡

1) 対象は部立築地産院出生の新生児、未熟児。

2) 研究方法

prospective および retrospective に、一般新生児、未熟児の SIDS（広および狭義）について検討する。

2. 研究結果

3年間における研究成果の結論は次の通りとなった。

A) 内分泌、代謝疾患の突然死について

先天性副腎皮質過形成、先天性甲状腺機能低下症、I-cell 病、その他の内分泌疾患や先

天性代謝異常症で予期しない急死をみることがあることが分った。特にクレチン症で、その固有の症状が全く認められないか、気付かれない例で突然の呼吸停止、心停止を示すことのあること、治療中の先天性副腎皮質過形成で突然死亡する例のあること、ホモチスチン尿症でも突然死（脳血栓）することのあることなどが分った。

B) 狭義 SIDS において、膵のラ氏島外 β 細胞に異常が存在する可能性のあること、時に副腎萎縮所見を示す例のあることが分った。SIDS の剖検においては内分泌腺の特殊染色など詳細な検討に欠けている例が多いので、将来はこの点に十分留意して検索が行われなければならないと考えられた。

甲状腺、下垂体には異常がないものと考えられた。

C) 未熟型 SIDS においてはミトコンドリア異常の存在する例の多いことが組織学的、生化学的に判明した。このミトコンドリア異常説は SIDS の結果と考えるか原因と考えるか、また狭義 SIDS にも共通して言えることかについては将来の検討に待つしかなかった。

D) 築地産院にて分娩した児の retrospective および prospective な追求では SIDS あるいは内分泌代謝疾患による突然死は存在しなかった。また未熟児などで呼吸不全を生後 2 週以内に起したことのある児においても、生存例の追跡では突然死亡率が高いという結論は得られなかった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究計画ならびに研究方法

過去3年間の研究は次の如き計画にそって行うこととした。

A) 内分泌、代謝疾患の急死(突然死)の研究

1) 対象は次の如く計画した。

a) すでに内分泌、代謝疾患と診断が確定している児が急死(突然死)した場合。これは広義のSIDSに含まれないが、症状などが安定していて、通常では急死すると予測されない児が突然死した場合、広義のSIDSに準ずるものと考えられ、その病態などの追求はSIDS病態研究の重要な資料となり得ると考えられる。

b) 突然死または未然型突然死の児で、後日の検索にて内分泌、代謝疾患と判明した場合。これは広義のSIDSに分類されると考えられた。2) 研究方法 a) 上記対象児の症例を詳細に検討する。

b) アンケート調査。全国小児科を対象施設として、上記の対象児について頻度、状況などを調査する。

B) SIDSまたは未然型SIDSの検討

1) 対象は狭義SIDS(死亡、剖検例)または未然型SIDS(救命例)とした。

2) 研究方法

a) 死亡例SIDSの内分泌腺について組織学的再検討を行う。特に副腎、膵、甲状腺を重点的に検討する。

b) 未然型SIDSについて血液生化学、ホルモン動態の研究、ならびに筋生検組織について形態学的に代謝病態を研究する。c) 新生児、未熟児についての追跡

1) 対象は部立築地産院出生の新生児、未熟児。

2) 研究方法

prospective および retrospective に、一般新生児、未熟児のSIDS(広および狭義)について検討する。